令和８年８月定例記者会見要旨（令和８年８月２５日）

１．さかいで大橋まつり海上花火大会について、開催が３０分遅れ、その「理由」についてホームページで掲載しています。市役所（守衛室）には多くの問い合わせ電話が入ったようです。会場アナウンスはされていましたが、それも本部周辺にとどまりました。昨年の花火大会でも、降雨の影響で、市役所に開催の有無を問い合わせる電話が相次いだようです。
限られた人員配置や多忙な運営の中、当日の周知には限界があるかもしれませんが、雨や風、船の動きなどは、今後も影響が考えられる要素です。開催直前の実施情報は非常に多くの市民らの関心事だと思います。情報提供のあり方について、何か考えはありますか。

８月１１日（火・祝）に開催した花火大会につきましては、花火の打ち上げ開始が予定時刻より約３０分遅れ、皆さまには長時間お待ちいただくこととなり、ご迷惑をおかけしました。

また、当日の打ち上げ開始時刻の遅延について、中央ふ頭会場本部付近でのアナウンスにとどまり、本部以外にもＳＮＳなどで即時にお知らせできなかったことを併せてお詫び申しあげます。

当日は、強風や波の影響により直前まで花火台船の位置および航泊禁止区域の調整を実施しており、関係各所からの情報が錯綜する中で、陸上・海上の観客の皆さまの安全を確保した上での開催方法の模索に注力いたしました結果、事故等なく打ち上げを遂行できたものの、迅速な告知にまでは至れませんでした。

今後は、多くのかたに情報提供できるよう、中央ふ頭会場本部付近でのアナウンスのみならず、市公式Ｘ等で状況を随時発信するなど、迅速な情報共有体制の強化を図ってまいります。

２．２０２８年秋供用開始予定の坂出駅前拠点施設は、図書館を中核施設としています。大橋記念図書館の機能を移す予定ですが、蔵書数は大橋記念図書館と比較し、どれほどの規模を計画していますか。数だけでなく、文化・歴史的に貴重な図書資料も同館は所有していると思いますが、その取り扱いについては、どのようにされる方針でしょうか。
また、拠点施設に機能移転する大橋記念図書館と勤労福祉センターの跡地については、２年前の６月定例議会一般質問で「利活用法の検討を進めていく」との答弁がありました。その後、利活用のめどについて、何か進展がありましたら、ご紹介ください。

ＪＲ坂出駅前において整備を進めている拠点施設につきましては、令和６年２月に公募型プロポーザルを実施した際に、要求水準書にて「２０万冊の蔵書冊数を事業期間内に確保

すること」としております。現在の大橋記念図書館においても開架・閉架合わせて約１９万冊があり、今後は令和１０年秋の供用開始に向けて、運営者であるＣＣＣ（カルチュア・コンビニエンス・クラブ）と現大橋記念図書館の司書を中心に、既存の貴重な図書資料も含めた選書を行っていくものであります。

他県におきましても、空洞化した市街地の再生拠点として、図書館を活用する動きが広がっており、その多くの図書館が、静かに本が読める従来の基礎的な役割を確保しながらも、会話ができるスペースやカフェ等を設けることにより居心地の良い空間を形成し、人を呼び込むことで、新たな交流の場を創出しております。

新たにできる駅前拠点施設においても、これまでの図書館利用者のかたはもちろんのこと、あらゆる世代のあらゆる人に本の魅力に触れていただける選書、そして空間を作り上げていきたいと考えております。

また、大橋記念図書館および勤労福祉センター跡地の利活用については、いずれも建設から 45 年以上を経過しており、既存建物の耐用年数や周辺施設の取り扱いも含めて総合的かつ慎重に判断していく必要があります。

いずれにいたしましても、まちづくりの観点から有効な利活用について今後も引き続き検討を進めていきたいと思います。